

平成28年度「ベンチャービジネス論」講義計画

日程・担当	講義タイトル / 講師（敬称略）	講義概要
第1回 4月13日	ガイダンス (受講者選抜)	講義のガイダンスを行う。 受講者の人数制限を設けているため、受講希望者多数の場合は、レポートにより100名を選抜する。
第2回 4月20日	「学生が世界を変える！ : アントレプレナーシップとイノベーションの本質」 東京大学産学連携本部 各務茂夫	シュンペーターの「経済発展理論」を持ち出すまでもなく、我が国の閉塞感を打破するのは、資本主義の駆動力ともいべき創造的破壊とそれに果敢に挑むアントレプレナーの存在であり、ベンチャー企業を創出する起業文化の醸成である。本講義ではアントレプレナーシップとイノベーションの本質・メカニズムについて触れ、学生の大いなる可能性について議論する。
第3回 4月27日	「Cs 吸着繊維 GAGA が原発港湾に浸った！」 VBL 副施設長 (工学研究科) 斎藤恭一	これまで30年間にわたって基盤技術として育ててきた「放射線グラフト重合」を用いて、市販のナイロン繊維からセシウム・ストロンチウム吸着繊維を作製し、東電福島第一原発の港湾に浸って除染に役立つまでに至りました。そのなかでの千葉大学の学生の活躍を紹介します。
第4回 5月11日	「マーケティングをビジネスにする！とは」 (株)パワー・インタラクティブ 岡本充智	就職したスポーツメーカーではマーケティング本部。転職したコンサルティングファームではマーケティングコンサルタント。起業はITマーケティング経営。大学は高分子化学専攻の素人がマーケティングを理論から実践へ。そしてソーシャルビジネスへと発展する軌跡を語る。
第5回 5月18日	「私の医工連携研究と身の丈起業」 京都府立医科大学 島田順一	外科医として、研究活動のなかで多くの人に出会い、結果として、YANCHERS株式会社を起業した。医業とベンチャー会社の運営をしつつ、京都で知力経営をめざしている。ベンチャー企業と知的財産権の実例をわかりやすくお話ししたいと思います。
第6回 5月25日	「ベンチャー企業の「常識」を疑おう」 (株)日本バイオデータ 緒方法親	「起業」自体は、お役所に行って登記するだけの誰にでもできる一時のイベントでしかありません。起業した後に毎日毎日続く「経営」のあり方こそが、経営者の生き様であり、社会への提案です。安易に「起業」させることを商売にしている人たちが居ること、彼らによってどのようなことが起きてしまっているのか、若い皆さんと考えてみたいと思います。
第7回 6月1日	「ベンチャー企業とお金の話」 千葉大亥鼻イノベーションプラザ 牛田雅之	事業を起こし継続するにはお金が必要です。「自分は研究者だからお金のことはわからない」では企業経営はできません。ベンチャー企業への投資とベンチャー企業経営の両方を経験した講師が、お金を適切に集める方法、集めるべきお金の種類などを講義します。
第8回 6月8日	「ベンチャー企業の分かれ道」 ウェザー・サービス(株) 横田匡彦	多くのベンチャー企業が設立されますが、5年後に生き残っている企業はわずかです。「生き残る企業」と「志が破れる企業」は何がちがうのか。また、経営者は多くの分かれ道に遭遇しますが、どのように対処すべきなのか。これまでの経験をおりませながら生々しい経営現場の一端を紹介します。
第9回 6月15日	「生き残るベンチャービジネスになるには」 (株)アクティブブレインズ 平山喬恵	ベンチャービジネスに必要な「技術力」「新規性」「スピード」。起業家に必要な「夢と情熱」「共感を得るコミュニケーション能力」。企業が継続するために必要な「営業力」「経営管理力」。これらが備わってはじめて「生き残るベンチャービジネス」となる。実際のビジネスの現場での事例をもとにこれらの要素について解説する。
第10回 6月22日	「忘れてはならない商標の話」 産学連携研究推進ステーション 高橋昌義	問題になった後で権利を取っておけばよかったと反省する権利の典型が商標権です。例えば「先に使用していれば権利を取らなくても使い続けられる」と安易に考えるのは極めて危険です。本講義では商標制度の概要、その紛争解決手段について説明するとともに、講師の経験した失敗例、その紛争の攻防について紹介し、企業が採っておくべき対策について提案します。
第11回 6月29日	「エンジニアが行った特許実践例」 (株)環境浄化研究所 藤原邦夫	プラント企業において放射線グラフト製品(素材)のみを取り扱う社内ベンチャーを立ち上げた。その技術の根幹を特許で支えた。発明者の側からの特許実践論を具体的に説明します。現在、斎藤先生の研究室に籍を置き、放射能除染材料開発に取り組んでいる。ホットな話題についても触れます。
第12回 7月6日	「研究成果を実用化する ~理工系人材のマネジメントと起業~」 (株)アミンファーマ研究所 片桐大輔	大学等の研究機関から生まれる高度な研究成果を実用化する方法の一つとして「起業」がある。実際に研究成果を基に起業したバイオ系ベンチャー企業を例に、事業化のポイントを考える。また、このような研究成果の実用化を基盤に置く企業の経営について検討し、理工系人材が行うべきマネジメントについても考える。
第13回 7月13日	「本学教員のベンチャービジネスへの取り組み」 VBL プロジェクトリーダー (融合科学研究科) 児玉浩明	食料自給率の向上などの目的から未利用資源の堆肥化(コンポスト)が推進されてきた。そのコンポストに内臓脂肪を減少させる機能があり、家畜の生産性を向上させる機能があることを明らかにした。これらの成果をもとに2013年千葉大学発ベンチャー、(株)サーマスを起業した。この経験から企業と大学の共同研究のあり方、生命科学系ベンチャーの問題点などを紹介する。
第14回 7月27日	「本学教員のベンチャービジネスへの取り組み」 VBL 施設長 (融合科学研究科) 星野勝義	ベンチャービジネスを志向するためには、市場で必要とされ、かつ不足しているものを認識すること、それにアプローチできる独自の技術・材料を備えていることが肝要となる。本講義では、VBLなのはなコンペおよびVBL研究プロジェクトで培った研究開発を具体例として、ベンチャービジネスへの取り組みについて紹介する。
第15回 8月3日	「なのはなコンペ(学生版)」の案内 2016年度受賞者の紹介	VBLが毎年開催している「なのはなコンペ(学生版)」について案内し、2016年度の受賞者を紹介します。

講義時間 : 前期・水曜日5限(16:10~17:40)
 講義場所 : 自然科学系総合研究棟2・2階マルチメディア講義室
 問い合わせ先 : ベンチャービジネスラボラトリー事務室 駒井裕子(内線3992, e-mail: komai@office.chiba-u.jp)